



人権・同和教育だより＊2学期編

平成27年12月25日

◆2学期の人権・同和教育の研究授業では、10月21日（水）の5時間目に生物環境工学科の全学年と電気科の2、3年生、6時間目に電子機械科と総合学科の全学年と電気科1年生で授業が公開されました。各学年が取り組んだテーマは、1年生が「アサーティブ＝コミュニケーションで気持ちを伝えよう」、2年生は「解放令から学ぶ」、3年生は「働き方のルールと心構え」です。以下は生徒の感想です。

<1年生>

- ・上手な伝え方が理解できたので、**感情でものを言わず相手を傷つけないようにしたい。**
- ・**優しく分かりやすく言うと印象がよい**ということが分った。
- ・キツすぎず内気にならず、**相手のことだけでなく自分のことも気遣っているりはすごい。**
- ・僕はきつと攻撃的な**ゴリゴリぶー**なので、互いが気持ちよく接せるようアサーティブにもの言えるようにしたいです。
- ・いろいろな場面では、言い方ひとつで伝わり方が変わってくるのだと思った。相手のことを思い、怒りすぎて自己中心になるのではなく、**相手を尊重して反省してもらえるようにしたい。**
- ・**言葉一つでも相手の聞き取り方はそれぞれ違うので、自分が思ったこと言うのではなく、短い時間の中でしっかり考えたい**と思った。
- ・**相手の立場になって考えることは、意識しないとできないことだと改めて思った。**これからも相手はどう思うかをしっかり考えて発言しようと思う。
- ・高校性になって相手の顔色を窺ったり、人の気持ちを考えられるようになったけど、その分伝え方も豊富になるのだなと思った。**場面に合わせて上手にコミュニケーションを取れるといい**と思う。

<2年生>

- ・**悪いことがあったときに、より悪い方へ流されないようにしよう**と思いました。
- ・日本にたくさんの反対一揆があり、美作騒擾は特にひどいと思った。**どうすれば部落差別がなくなるか考える必要がある**と思う。
- ・**一度差別してしまうと、なかなか差別廃止を受け入れることができないのだろう**と思った。だから差別は一度もしてはいけなし、しないようにしようと思った。
- ・**昔の政府への不満などで、人々が差別を更にひどくしたという事が初めてわかった。**政府も政府で、全然差別されている人を助けられてなかったことも初めて知りました。二度とこのような事があってはならない。
- ・差別は昔から今でも続く**私たちが無くしていかなければならない課題でもある**ので、少しずつでも無くしていきたい。
- ・ぞうりづくりや革づくり、家畜の解体など自分たちもお世話になっている人をなぜ差別するのかと思った。**解放令が出されてうれしい気持ちから、一揆で殺されるかもしれないという恐怖におちいってしまったなんてとてもこわい。**
- ・中学校の授業で習ったことのある内容だったので、思い起こしながら授業を受けた。人のために思ってしたことが逆に人を苦しめてしまうというのはいけなしことですが、その嫌味を他人にぶつけるのはもっとよくないことだと思う。**今も絶えない人権に関する問題は誰も他人事ではない**ことをきちんと理解してほしい。
- ・前回の授業から発展させて、差別について学ぶことができ、本当にためになった。差別心理は暴走すると人を傷つけるようなことになってしまうので、とてもこわいと思った。だから**「差別」をなくすことは大切だ**と思いました。**でも、口では簡単に言えるけど、なかなか行動に移せない**ので、**気持ちをつくっていくべきだ**と思う。
- ・今回の授業は**昔のことだけど今にも充分あてはまる**ことだと思った。前回学んだように差別は「なくそうと思えばなくせるもの」だし、自分の不満や何かに対する反発だけで他人を傷つける行為は絶対にしてはいけなしことだと思った。

<3年生>

- ・将来自分が働いていく中で**どのような心構えで仕事を頑張るのかを考えることができた**のでよかった。
- ・今後はアルバイトをしておかしいなと思ったら、必ず誰かに相談していきたいと思った。
- ・最近、女性が働きやすい環境整備が進められているので、もっと整備して更に女性が働けるようにしてほしい。**新しい労働法について知ることでもできたので、社会人になる前に自分で調べて、しっかりと理解を深めておきたい。**
- ・一番印象に残ったところは、**おかしい働き方なのに本人が気付かない**というところ。自分も同じ立場になれば気付かないかもしれないと思った。これから先同じようなことを経験したら、他の人に相談ししっかりと対応していきたい。
- ・事例のコンビニのように、社会の基準とはずれているアルバイトもあるので、**自分で判断したり気づく能力も大切だ**と思った。企業の良いところだけでなく悪いところも知ったうえで働く場を決めることも必要。
- ・アルバイトでもブラックと呼ばれるような実態があることを初めて知り、驚いた。**まずは自分から知ろうとしていくことが大切だ**と思った。**選挙権を持つ年齢になり、ちょうど良い機会でもあると思うので、意識的に新聞を読んだり、ニュースを見たりしていきたい。**

♠♠また11月8日(日)の翔陽祭第1日目には、PTAと共催した人権・同和教育講演会「新ちゃんのお笑い人権高座」が開催され、落語家の露の新治さんが「自分の人生、自分が主役、バイバイ、コンプレックス」と題して話されました。当日は、PTA村で活躍された保護者の方のご協力により、一般も含めて60名以上の方に参加していただくことができました。以下は保護者の方の感想です。ちなみに新ちゃん語録より、心に残った言葉No1大人編は「願生る(がんばる)」でした!

- ・高校生といえども親にとってはいつまでもかわいい子どもです。親から愛されているという「あなた達は宝の子」と親に代わって、子どもに言って下さった気がしました。
- ・人生の中の色々な出来事は全てに意味があるということを改めて感じました。今まで辛い思いや嬉しい思いをしてきましたが、何か意味があることと思っています。
- ・いくつになっても自分自身を変えていくことはできるという言葉が印象に残りました。自分の心に軸を持って強くありたいと思います。
- ・誰もが持つ自分差別から自分を解放し、自分と向き合い、“自忬”をもつ。自分の差別心を自覚し、差別しない生き方、人生を笑顔で送る素晴らしさを感じた。
- ・人は誰も願われて生き、願って生き、生きることに意味がある。
- ・子どもに対しての関わり方、声かけ、他人と比べたことなど、思い当たることが多く反省しました。コンプレックスに対しても、自分で思うことも気にせず前向きにならなくてはと思いました。
- ・色々な時に色々な意味で使える言葉を教えていただいた。コンプレックスも差別も笑い飛ばして、子どもたちは生きていってほしいと思います。

♠♠♠京都にある崇仁まちづくりの会で、児童館の活動をとおして、PTAとともに地域で子どもを育てる活動をされている方のお話を聞く機会がありました。子どもたちは、地域の伝統的な祭りや、マラソン大会、大学生との交流など多彩な経験をとおして、自分の生まれ育った地域に誇りを持ち、育ててくれた親に感謝の気持ちを持って、たくましく生きています。不安定な経済状況で、子どもの貧困率が15.7%と先進国の中でも高いわが国ですが、崇仁地区では進学率の上昇とともに、経済不安を脱する若い人が増えてきたそうです。やはり、子どもたちの“生きる力”の土台は学力だと実感しました。翔陽生もこのことを心して、しっかりと学習に取り組み、日々の学校生活を充実させてほしいと思いました。「勉強せにゃあかんのやぞ!」という子どもたちへの励ましが残りました。(有)

